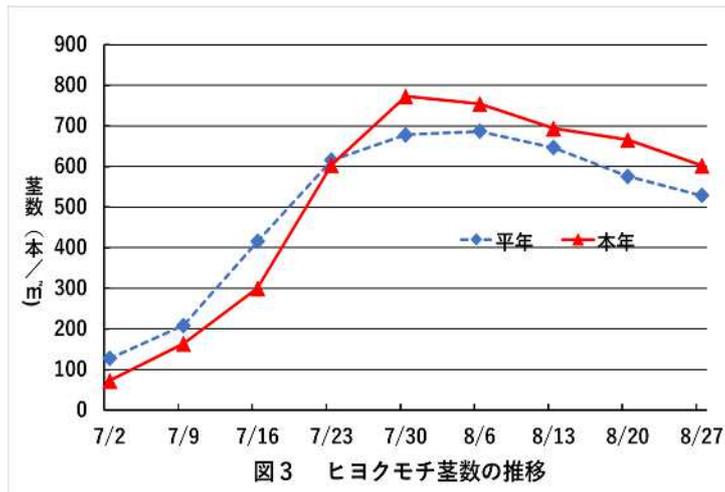
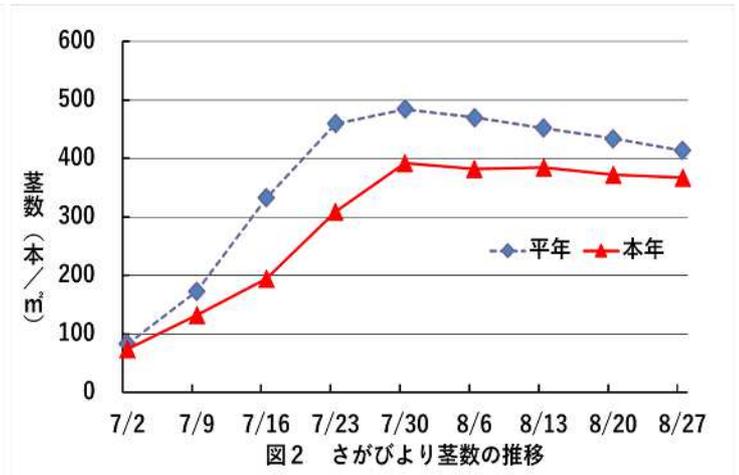
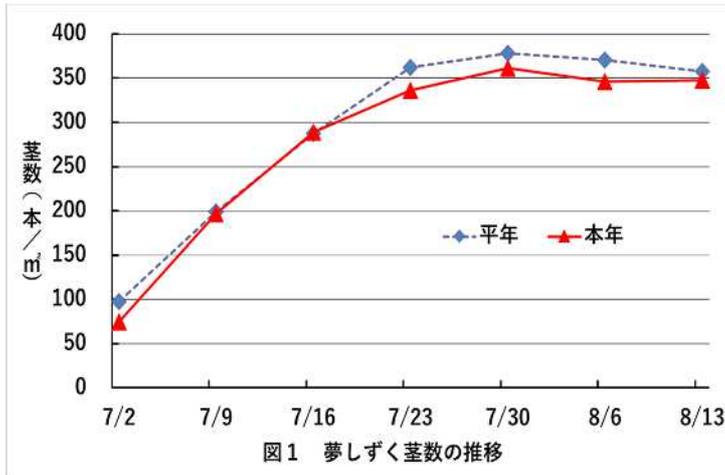


# 稲・大豆作情報 (NO. 9)

## 1. 水稻作況情報田の生育概況 (8月27日現在)

品種 場所	移植日 栽植株数	年次	現在の生育状況				概況
			草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉齢	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/m <sup>2</sup>	本年 平年 平年比			出穂期 8月15日 (平年より1日早い)		8月5半旬は、気温はかなり高く(平年より+3.7℃)、降水量はやや少なく(平年比67%)、多照(平年比152%)で経過している。  ◇平年と比べ、 草丈:「さがびより」は低い、「ヒヨクモチ」は平年並み。 茎数:「さがびより」は少ない、「ヒヨクモチ」は多い。 葉齢:「さがびより」はやや遅れており、「ヒヨクモチ」はやや進んでいる。 葉色:「さがびより」はやや淡く、「ヒヨクモチ」は濃い。
さがびより 小城市芦刈町	6/22 18.5株/m <sup>2</sup>	本年 平年 平年比	83.6 96.0 (87)	367 414 (89)	14.6 15.1 (-0.5)	33.5 34.2 (-0.7)	
ヒヨクモチ 神崎市神埼町	6/21 19.0株/m <sup>2</sup>	本年 平年 平年比	79.9 83.2 (96)	602 529 (114)	16.2 15.3 (+0.9)	37.2 35.3 (+1.9)	

注1) 各品種 前作: 麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる  
注3) 平年値は、過去10年間(H25~R5)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH25~R5年の平均値)  
注4) ヒヨクモチは今回神埼町のデータを用いています



◆農業試験研究センター米づくり情報 第9号 8月27日(抜粋)

本年産水稻の生育状況(8月27日)

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
6月18日	夢しずく	本年 平年 平年比(差)	出穂期:8月15日 出穂期:8月17日 -2			[気象] 8月20日~8月26日まで ◆平均気温…平年より3.1°C高い(30.8°C) ◆日照時間…長い(平年比144%) ◆降水量…少ない(平年比93%) [生育] ◆草丈 「さがびより」は高く、「ヒヨクモチ」はやや高い。 ◆茎数 「さがびより」「ヒヨクモチ」どちらもやや多い。 ◆葉齢 「ヒノヒカリ」の主稈葉数は本年14.6、平年14.3でやや多かった。 「ヒヨクモチ」は進んでいる。 ◆葉色 「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや濃い。	
	ヒノヒカリ	本年 平年 平年比(差)	出穂期:8月24日 出穂期:8月27日 -3				
6月20日	さがびより	本年 平年 平年比(差)	101.7 92.9 109	452 437 103	15.2 15.0 +0.2	36.6 35.7 +0.9	
	ヒヨクモチ	本年 平年 平年比(差)	81.5 78.2 104	531 513 104	16.2 15.6 +0.6	38.3 36.7 +1.6	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「さがびより」は、“走り穂”がみられ間もなく出穂期を迎える。</li> <li>○「ヒヨクモチ」の出穂期は、葉耳間長から判断すると平年並み(9月4日頃)となる見込み。</li> <li>○「ヒヨクモチ」は紋枯病が多くみられた。また、コブノメイガの成虫も多くみられた。</li> </ul>						

1) 耕種概要等は第1号参照

## 2. 水稻における今後の管理

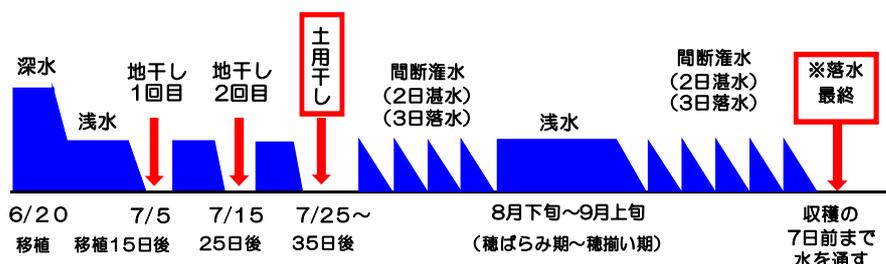
○水管理 ~ 生育ステージに応じた適正な水管理を行う ~

「夢しずく」

- ・早植えの「夢しずく」(5月下旬~6月上旬移植)は、糊熟期となっている。
- ・普通期の「夢しずく」(6月中旬移植)は、乳熟期~糊熟期を迎えている。
- ・根の活力維持と地固めのため間断灌水に移行する。

「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」

- ・「ヒノヒカリ」は、出穂期を迎えており、「さがびより」は間もなく出穂期を迎える。
- ・出穂期前後は、要水量が最も多いため、穂揃い期まで浅水で湛水状態を保つ。
- ・「ヒヨクモチ」は、穂ばらみ期となっており、湛水管理に移行する。



## ○台風対策

- ・台風10号が8/29~30にかけて北部九州に接近する恐れがあり、進路によっては水稻への影響が懸念されます。
- ・**台風接近時** → ①強風による稔実阻害（不稔、白穂などの発生）や登熟阻害（籾ズレにより病気や雑菌の感染）が懸念されるため、深水管理とし稲体の振動を少なくする。  
②いずれの品種も、茎葉の繁茂度が高く、水分の蒸散量が著しい時期にあたるので、必ず深水・湛水を行う。
- ・**台風通過後** → ①茎葉の損傷により根の老化が進むことがあるので、台風通過後は必ず新しい水と入れ替えて、こまめに間断灌水を行い、根の機能維持・生育回復に努める。  
②水田に海水流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と入れ替える。できれば掛け流しを行って除塩するか、少なくとも2~3回は水を入れ替え、生育回復に努める。  
③台風通過後は受光体制が乱れ、ウンカや白葉枯れ病等が発生しやすくなるため、トビイロウンカの発生には十分注意し、場合により薬剤防除を検討する。

## ○穂肥

### 「ヒヨクモチ」

- ・「ヒヨクモチ」は、現在2回目の穂肥時期を迎えている。下記の穂肥施用基準を参考に施用する。
- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断灌水では、土壤中に酸素を送り、根の活力を向上するため落水期間を確実にとる。なお、田面が緩い場合、収穫と麦播種作業の効率化を図るため、落水期間をやや長めにとる。

表1. ヒヨクモチの穂肥施肥基準

	穂肥Ⅰ施用量(kg/10a)	穂肥Ⅱ施用(kg/10a)	実肥施用量(kg/10a)
施用時期の目安	8月15~17日頃 (幼穂形成始期 幼穂長1ミリ頃)	8月25~27日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月8日~10日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

- ※「元肥一発肥料」を施用した圃場で、穂肥Ⅰ~Ⅱの時期に葉緑素計（SPAD）で40を切る場合には窒素成分で2kg/10a程度（BB602 10~20kg/10a）施用すれば、増収効果がある。  
大豆跡の圃場では、穂肥の散布を控えるか上記施用量の5割未満に減肥して施用する。

## ○病虫害情報（発生および防除）

- ・8/27に調査した圃場では、ウンカ類の幼虫（本田防除後で発生量は少ない）及びコブノメイガの幼虫と成虫（発蛾：葉色の濃い圃場でやや多い）を確認している。
- ・向こう1か月の気象予報（福岡管区气象台：8/24~9/23）によると、九州北部地方は、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、2週目はかなり高くなると予想されており、このような条件下では害虫の発生が多くなるため、圃場での発生状況を確認し、適期防除を実施する。

### ①【トビイロウンカ】

- ・ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）は、梅雨の前線に伴う飛来（6/23~、7/1~、7/10~）が確認されている。
- ・トビイロウンカの発生予測は、図1のとおりで、防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期（各幼虫期の前半）である。【有効薬剤：オーケストラ、エクシード、エミリア など】
- ・防除する場合は、湛水するとともに薬剤が株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。
- ・展着剤を加用することで防除効果の安定化を図る（現段階では地上散布のみ）

## ② 【コブノメイガ】

- ・ 県内のライトトラップで8月中旬以降、多くの成虫が誘殺されている。
- ・ 8月下旬の定期調査では、普通期水稻で発生率は「多」となっており、管内の一部圃場でも多くの成虫と幼虫が確認されている。【有効薬剤：ロムダン、トレボン など】
- ・ 今後、止葉を含む上位3葉に被害が発生すると減収につながるため、発生状況に注意する。
- ・ コブノメイガの発生予測は、図2のとおりで防除適期は幼虫ふ化揃い期(発蛾最盛期の7日後)である。  
(各自圃場の状況を見ながら防除をおこなう。)
- ・ 上記の両害虫とも、品種別に発生状況は異なると考えられるため発生状況を確認し、適期防除に努める。
- ・ 今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を、農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

暫定防除時期

1回目 8/14~8/20  
2回目 9/12~9/20

暫定防除時期

1回目 8/10~8/22  
2回目 9/13~9/29

## ③ 【斑点米カメムシ】

- ・ 向こう1か月の気象予報 (福岡管区気象台: 8/24~9/23) によると、九州北部地方では、今後も平均気温は高くなると予想されているため、カメムシ類は多発生条件となっている。
- ・ 出穂後の除草は、水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、出穂10日前までに畦畔除草を行い、乳熟期(穂揃い期の約10日後)を中心に薬剤防除を実施する。
- ・ 山麓部や河川敷付近など、例年発生の多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。
- ・ 防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。
- ・ イネカメムシも県内平坦部でも確認されており、特に注意して圃場の状況を確認する。  
(イネカメムシは出穂期~登熟初期に籾を加害し不稔を生じさせ、減収の要因となる。)



写真: イネカメムシ

表2. 各品種別の草刈り時期と防除時期の目安

品種名	出穂10日前	出穂期(平年)	乳熟期(平年)
夢しずく	~8/6頃まで	8/16	8/28頃
ヒノヒカリ	~8/17頃まで	8/27	9/8頃
さがびより	~8/20頃まで	8/30	9/11頃
ヒヨクモチ	~8/31頃まで	9/10	9/22頃

※出穂期(平年)は、佐城管内における情報田のデータの平均値

※被害の常発地帯や多発生が予想される場合、穂揃い期と乳熟期に薬剤防除を行うと効果的です。

#### ④ 【紋枯病】

- ・向こう1か月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっており、多くの圃場で発生を確認している。
- ・高温多湿条件が続くと、紋枯れ病が進展する恐れが高まるので、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展(垂直進展)する時期に防除を徹底する。(液剤、粉剤の場合は出穂10~20日前を目安とする)
- ・病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。



写真：紋枯病(8/20撮影)

### 3. 大豆における今後の管理

#### 1) 大豆の生育状況

7月上旬頃に播種 → 開花最盛期

7月下旬頃に播種 → 本葉5~開花始め

※同じ播種時期でも土壌水分の違いや降雨の有無で生育格差が大きい。



写真1 7月上旬播種(8/26撮影)



写真2 7月下旬播種(8/26撮影)

#### 2) 今後の管理

- ・台風の接近に伴い、降雨が予測されるため、速やかに排水できるよう排水路(明渠)を整備する。
- ・これまでの高温・乾燥への対応として、土壌水分確保のためコルゲート管を閉栓している圃場では、コルゲート管を開栓し、排水を促進する。なお、台風通過後は、週間天気予報を確認し、高温・乾燥条件が続く場合には、再度コルゲート管を閉栓し、土壌水分確保に努める。

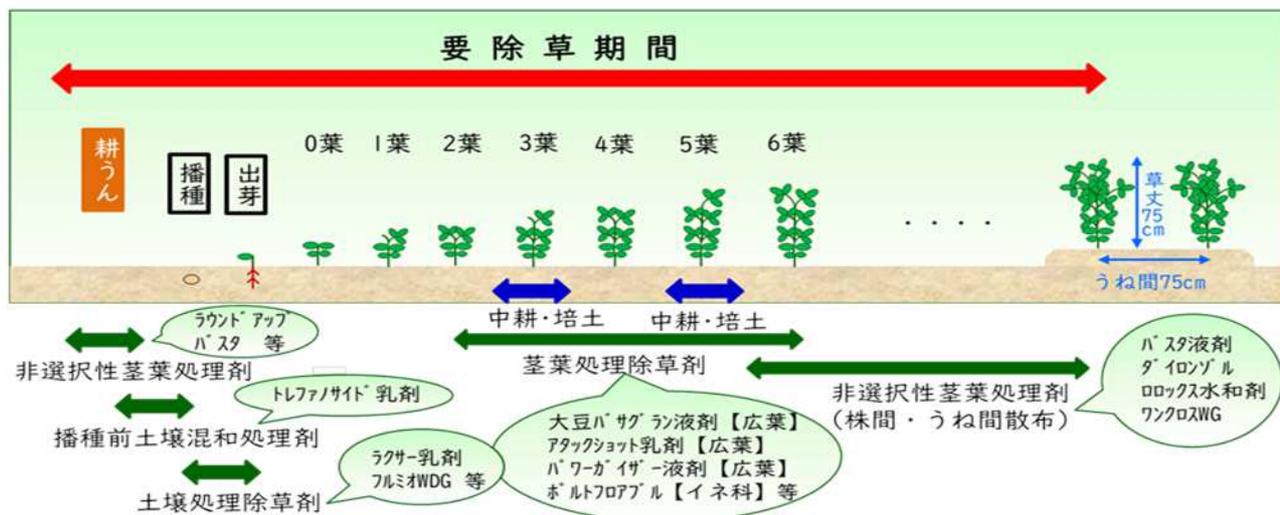


大量の水を必要とするため干ばつが予想される場合は灌漑が必要

### 3) 雑草防除（生育期処理）

- ・雑草の発生が多い圃場では、雑草の発生に応じて生育期の茎葉処理剤（下図を参照）を散布する。
  - ・アサガオ類・ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内への侵入防止に努める。
- また、発生が認められる圃場は、発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行う。

図1. 除草技術と実施時期の目安



※アタックショット乳剤（使用時期：大豆開花前まで）は、重複散布や他の茎葉処理剤との混用、展着剤の加用、粒径の細かいノズルによる散布、軟弱徒長気味の大豆への散布を行うと、薬害を助長するため避ける。

### 4) 病虫害対策（発生及び防除）

【ハスモンヨトウ、カメムシ類】

- ・病虫害発生予察情報予察第5号（8月7日発表：大豆8月下旬）では、九州北部地方の1か月予報で気温は高く・降水量はやや少なく、多発生の条件となり、予想発生量は「ハスモンヨトウ」・「カメムシ類」ともに平年比「やや多」となっている。

播種期に係らず管内の多くの圃場では白変葉及びハスモンヨトウの幼虫が確認されている。

- ・防除適期は、若令幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中齢幼虫以上（体長約2cm以上）になると、防除効果が低下するため、圃場をよく観察し適期防除を実施する。
- ・防除後約3日経過した後も高い密度で食害を続けている時は、再防除が必要である。
- ・カメムシ類の防除適期は、莢の伸長初期から子実肥大中期であるため、圃場での発生状況を確認し、遅れないように防除を実施する。





写真：左 ハスモンヨトウ若齢



右 白変葉とほかの害虫の食害(8/23撮影)

【オオタバコガ・ウワバ類】

- ・ 気象予報では高温・少雨が予測され、ハスモンヨトウと同様、今後の発生状況に注意する。
- ・ 葉に大きな穴が開いた株が目立ち、周辺に青虫がいる場合は、オオタバコガによる食害の可能性が高くウワバ類やシロイチモジヨトウが含まれる場合もある。

表1.防除薬剤

名 称	効果が高い薬剤	感受性低下が疑われる薬剤
ハスモンヨトウ	プレオ、ディアナ、ベネビア、グレーシア等	プレバソン
オオタバコガ	プレオ、グレーシア等	ノーモルト、トレボン
シロイチモジヨトウ	プレオ、グレーシア等	ノーモルト、トレボン

※オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンは感受性が低下しており、使用を避ける。

### 令和6年産水稻・大豆生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

